

## 会 議 録 (要旨)

会議名	第5回瑞穂町教育基本計画審議会
開催日時	令和元年10月28日(月) 午後6時から午後8時10分まで
開催場所	瑞穂ビューパーク・スカイホール 小ホール
出席者及び欠席者	<p>教育基本計画審議会委員</p> <p>出席者：田中委員、悴田委員、石坂委員、池谷委員、中野委員、山宮委員、戸田委員、田村委員、下田委員、沖委員、鈴木委員、宮坂委員、岡田委員、石川委員、友野委員、佐久間委員</p> <p>欠席者：鳥海委員</p> <p>事務局：小峰教育部長、小熊指導課長、稲富統括指導主事、加藤指導係長</p>
報告事項	なし
審議会次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. あいさつ</li> <li>3. 第2次教育基本計画素案審議             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第2次教育基本計画素案の修正について</li> <li>(2) 内容説明(フェーズ3・6からフェーズ3・9まで)</li> </ol> </li> <li>4. 事務連絡</li> <li>5. 閉会</li> </ol>
傍聴者	なし
審議経過 (主な意見等を原則として発言順に記載。同一内容は一つにまとめた。)	<p>次第1. 開会、田中会長から会議の公開、会議の成立、会議時間、についての説明が行われ、会議が進められた。</p> <p>次第2. 小峰教育部長挨拶</p> <p>次第3. 第2次瑞穂町教育基本計画素案審議</p> <p>(1) 説明 小熊指導課長から、第4回審議会での指摘事項について修正した箇所の説明・確認。</p> <p>[主な質疑応答]</p> <p>(宮坂委員) 平和の語り部が企画課とありますが、これでは町として企画課の事業となってしまうので、教育委員会として企画課と連携など記載方法を工夫したほうがよいのでは。</p> <p>(田中会長) フューチャースクールやステップアップ教室は固有の事業名であるため、見直しや改善を行い名称が変わる可能性があるのであれば、固有の名称は載せずに主旨として補修学習の改善、充実などの表現がよいのでは。</p> <p>(石坂委員) P44日本の伝統・文化理解教育の推進で、東京狭山茶を用いた茶道教室とあるが、限定せずにもっと間口を広げ、伝統文化に重きを置いた教育を行うとしたほうが良いのではないかと。産業の中で、なぜ狭山茶だけ載せるのかという疑問がでてくるのでは。</p>

(池谷委員) 茶道教室を授業で実施している中学校の側からみると、基本計画に茶道教室の実施と記載されていると、茶道のための設備をより充実してもらえるものと考えてしまう。そのような見通しがあったのであれば記載してあってもよいと思う。

(戸田委員) P 4 6 規範意識の弱さについて、保育園・幼稚園との連携の前段階の親教育として、規範意識や生活リズムの改善などを盛り込むことは難しいか。

(田中会長) 教育基本計画は学校教育についての計画となるため、この計画の中で家庭教育を含めることは難しいのではないか。

(小熊教育課長) P 6 9 に地域学校協働本部があるためそこに絡め記載することはできます。

(悴田委員) 文言等の修正。

(石坂委員) P 5 0 体力・運動能力調査はどこかの調査か。

(小熊指導課長) 東京都の調査です。出典を記載します。

(田中会長) 食物対応マニュアルは学校ごとに作成しているのか。

(友野委員) 町で瑞穂町アレルギー疾患対応マニュアルを策定しているので、年間指導計画の策定は必要だが、学校ごとのマニュアルの策定までは必要がないのでは。

(2) 内容説明 (フェーズ 3・6 からフェーズ 3・9 まで) 小熊指導課長から説明があり、各委員へ審議依頼。

[主な質疑応答] (フェーズ 3・6～7)

(友野委員) P 5 9 危険なブロック塀等の撤去・新設とあるが、学校内には違法なブロック塀はなく、自主的に行っているものであるため、老朽化等によるものと記載した方がよいのでは。また、(仮称) 公共施設等総合管理計画とあるが、平成 2 8 年度に企画課で瑞穂町公共施設等総合管理計画があり、それに基づき今後、学校施設の長寿命化計画

(個別施設計画) を策定していくものであるため、(仮称) を除き瑞穂町公共施設等総合管理計画としたほうがよいのでは。また、(3) 枠内の計画名については、瑞穂町 I C T 教育施設整備計画であるため「実施」という文言は不要です。P 6 0 (4) の枠内にある町防災無線による見守り呼びかけについては低学年に限ったものではないため、小学生全般を対象としており、放送内容を次年度から変更予定です。

(地域課長) 町防災無線ではなく、町防災行政無線です。

(田中会長) P 5 9 (3) 枠内について、タブレット端末などの台数が記載されているが、1 0 年後にタブレットがあるかどうかはわからないものであるため、そこまで詳細を入れる必要はないのではないか。I T 環境は 3 年後には状況が変わってくる可能性がある。また P 6 1 のグラフなど出典を記載したほうがよい。

(宮坂委員) P 5 8 の立川断層については、厳密には立川断層ではない可能性もでてきているため、名称は検討したほうがよいのでは。

(鈴木委員) P 6 1 の優秀な教員の確保とあるが、優秀とはどこで判

断するのか。また、その後の枠内にはやる気のある先生の確保とあるが。

(田中会長) 教育力の高い教員を求めるといった文言に変更したほうがよいのでは。

(戸田委員) 災害時の中学生の活躍が報道されている中で、大きな災害が起こった場合のハード面の対策だけでなく、避難所となる中学校の生徒に対してのされている中で役割などをいれることはできないか。

(鈴木委員) P 6 1 に中学校の教員は研修等の取り組みが弱くとあるが、次ページの研修を行っている上、時間が無い中にさらに研修を行わなければならないのか。

(田中会長) 中学校教員の取り組みが弱いと言い切るのはやめて、より必要であるや、専門性を高めるなどの文言に変更したほうがよいのでは。

(佐久間委員) P 6 1 のグラフから、相関性が高い低いなどが読み取れるのか。

(田中会長) 全体的に研修は行っているが、子どもの学力向上には直結していないということから、一層の研修が必要という内容がこのページでは書かれていけばよいのでは。

[主な質疑応答] (フェーズ 3・8～9)

(田中会長) 地域学校協働本部の責任者は校長になるのか。

(小熊指導課長) P 7 1 の学校運営連絡協議会の方々が地域学校協働本部の運営母体となります。

(戸田委員) フェーズ 3・9 の地域学校協働本部について、フューチャースクールでは塾の講師により課題が与えられていたが、見通しを持った学力をつけるための課題をどのように誰が与えるのか。参加を子どもたちの自主性に任せてしまうとどれだけの子どもが放課後参加するのか。どこと連携してどれだけの地域の人材を集めるのか。など、漠然としている。

(小熊指導課長) 課題の与え方については教員に協力してもらい、宿題として課題を出してもらいます。先週の授業で課題が残っている部分を宿題として出すなど、地域学校協働本部と教員がうまく連携できるようなサイクルとして確立していきます。責任者については、地域コーディネーターがメインとなります。全員参加できるのかという点については、中学校は週 2 日部活動は休日を設定するので、その休日を充て、小学校はステップアップ教室として放課後補修教室を実施している実績があるのでそれを母体とし実施します。地域人材のボランティアについては、やはり集まるかの危惧はあるため、民間の塾に協力してもらい講師の派遣を依頼することを考えています。また教育系の大学と連携し学生の協力を得ることも模索しています。

次第 4. 事務連絡 小熊指導課長から予備日での開催について説明。

次第5. 閉会、田中会長により閉会。

閉会 午後8時10分